

父のくさい足

村永 絵玲愛 志布志市立有明小学校六年

私の父の足はくさいです。特に仕事から帰ってきた後のおいは最強です。なので、父は仕事から帰ったら、まず靴下をぬいで、足を洗いにいきます。そこに私がいると、冗談が大好きな父は、くさい靴下を私に近づけてきて、にげる私を見て喜んでいきます。父のことは大好きだけれど、父の足のおいだけは苦手で、父の足がくさくなくなればいいのになとも思っていました。

去年の十一月十四日の朝、父は通勤途中にけ

けうれしくなります。

がをして病院に運ばれ、母と私たち兄妹は急いで病院に向かいました。病院で見た父は、両足を固定され、体のあちこちから血が出ていました。しっかりと見られたのは父の悲しそうな顔だけでした。父は、右足に大きなプレートを入れる手術をして、一か月半の入院になりました。その間、父は、ずっとベッドに寝たきりだったので、元気も体力もなくなっていました。自分で靴下をはけない父に、私はよく靴下をはかせてあげました。父はいつも

私が苦手だった父のくさい足。それは、父が元気で家族のために頑張って働いてくれているという証。だから、今ではくさい足にも感謝しています。いつも頑張ってきてくれる父のために、私は、もっともつとくさい父の作業靴を洗ってあげたいです。

「ありがとう」

